

言語能力を統合して解決する問題① 国語科

報告者 白井雄大

1 出題の意図

国語科の問題は、問1、2から成り、全て説明的文章を題材としている。見取る言語能力として、「情報を読み取る力」「情報を比較し読み取る力」「読み取った情報を基に自分の考えを表現する力」の3種類を設定した。先の二つで読解力の側面を、後の一つで創造的思考の側面と他者とのコミュニケーションの側面を測定する。

1・2年生は、問1で「情報を読み取る力」、問2で「情報を比較し読み取る力」を見取れるようにした。問1は○×問題、問2は選択式問題である。

3年生以上は、問1の①②問目で「情報を読み取る力」、③④問目で「情報を比較し読み取る力」、問2で「読み取った情報を基に自分の考えを表現する力」を見取るようにした。問1は○×問題、問2は記述式問題である。

2 調査結果 上段（6月→11月）下段（R3年度6月→2月）

表1 「情報を読み取る力」をみる問題における正答率（%）

	1年間1①	1年間1②	1年間1③	1年間1④	2年間1①	2年間1②	2年間1③	2年間1④
紙／紙	未→87.5 (未→83.0)	未→90.4 (未→96.0)	未→78.8 (未→80.0)	未→85.6 (未→83.0)	76.5→○89.4 (78.8→○97.9)	96.1→97.9 (92.3→100)	72.5→80.9 (69.2→○83.0)	88.2→89.4 (90.4→97.9)
ICT／紙					81.6→78.8 (72.0→○84.0)	93.9→96.2 (98.0→98.0)	63.3→73.1 (86.0→78.0)	87.8→90.4 (98.0→△84.0)
	3年間1①	3年間1②	4年間1①	4年間1②	5年間1①	5年間1②	6年間1①	6年間1②
紙／紙	56.6→○73.6 (51.0→○63.3)	96.2→100 (89.8→89.8)	67.6→○87.1 (66.7→●90.9)	97.1→100 (97.0→93.9)	97.0→97.0 (100→100)	72.7→78.8 (97.1→△84.4)	85.7→○97.1 (91.2→100)	60.0→●85.7 (73.5→70.6)
ICT／紙	34.7→○46.9 (42.2→●77.8)	87.8→95.9 (95.6→93.3)	68.6→●90.6 (90.3→△74.2)	94.3→93.8 (87.1→93.5)	97.0→91.4 (97.1→100)	72.7→○85.7 (79.4→85.3)	82.4→○100 (100→90.9)	47.1→●94.1 (64.7→○75.8)
ICT／ICT			72.7→71.0 (52.9→●79.4)	84.8→○100 (91.2→82.4)	97.0→97.0 (91.4→96.6)	72.7→78.8 (77.1→○89.7)	91.4→94.3 (97.1→93.8)	65.7→68.6 (52.9→56.3)

表2 「情報を比較し読み取る力」をみる問題における正答率（%）

	1年間2	2年間2						
紙／紙	未→72.1 (未→69.0)	88.2→89.4 (90.4→95.7)						
ICT／紙		87.8→92.3 (88.0→94.0)						
	3年間1③	3年間1④	4年間1③	4年間1④	5年間1③	5年間1④	6年間1③	6年間1④
紙／紙	90.6→92.5 (92.2→91.8)	66.0→71.7 (65.3→○83.7)	88.2→○100 (81.8→○93.9)	64.7→67.7 (60.6→○78.8)	93.9→97.0 (97.1→96.9)	97.0→100 (100→100)	77.1→85.7 (79.4→76.5)	80.0→82.9 (79.4→76.5)
ICT／紙	83.7→91.8 (93.3→91.1)	67.3→63.3 (68.9→○82.2)	82.9→87.5 (71.0→○83.9)	57.1→○71.9 (67.7→△52.9)	90.9→88.6 (100→△85.3)	100→97.1 (100→100)	61.8→●94.1 (82.4→87.9)	70.6→●91.2 (88.2→81.8)
ICT／ICT			87.9→87.1 (73.5→○85.3)	63.6→64.5 (58.8→52.9)	93.9→97.0 (94.3→96.6)	97.0→100 (97.1→100)	77.1→68.6 (61.8→○81.3)	74.3→○85.7 (70.6→78.1)

表3 「読み取った情報を基に自分の考えを表現する力」をみる問題における正答率（%）

	3年間2	4年間2	5年間2	6年間2
紙／紙	43.4→△26.4 (34.7→●63.3)	47.1→○61.3 (66.7→△54.5)	84.8→93.9 (62.9→62.5)	60.0→68.6 (50.0→58.8)
ICT／紙	31.3→△16.3 (55.6→55.6)	57.1→○68.8 (64.5→64.7)	66.7→○85.7 (67.6→58.8)	64.7→△52.9 (50.0→●72.7)
ICT／ICT		66.7→67.7 (55.9→64.7)	84.8→93.9 (45.7→41.4)	54.3→○65.7 (52.9→59.4)

※ ゴシック体は、同項目最下位より10%以上高い値。

6月より10%以上差異がある値は○か△、20%以上なら●か▲。

3 考察①「提示／回答方法の『言語能力』への影響」

表1～表3のゴシック体部分に着目すると、学年や実施時期によって顕著な傾向は見られなかった。これらの結果から、読解力に関しては、単純な読み取りも複雑な読み取りも、媒体による差異は小さいことが分かった。

タイピングによる記述(表3のICT/ICT)は、タイピング技能が習熟され、思い通りの文章を打つことができるようになるため向上すると予測される。しかし、実際は紙/紙、ICT/紙と比較しても顕著な差異はなく、アカデミック・ライティング指導の成果としての向上との違いは見取れなかった。この要因として、GIGA SCHOOL構想が始まって以来、本校でもICTを利活用した授業に取り組んでいることが挙げられる。例えば国語科の授業においても、3年生の春にローマ字指導を前倒しし、年間を通してタイピングの習熟指導を行っている。また、4年生からはタイピングを用いてレポート作成をする単元を設定するなど、日頃からタイピングに慣れているためと想定される。

ICT/ICTに着目してみると、全学年を通して正答率が下がった例がほとんどない。他の問題は、半年ほどの期間を経ているにも関わらず正答率が下がっている個所が見られる。ICT/ICTのみが下がらなかった可能性として、紙を扱う場合に比べて高い集中力を必要としていたという理由が考えられる。

4 考察②「アカデミック・ライティングで指導可能な言語能力の変化」

「情報を読み取る力」「情報を比較し読み取る力」に関わる問題では、言語能力の内の「読解力」を見ることができる。この問題における令和3年度夏から令和4年度秋までの全学年(1年生を除く)平均点の推移は、表4に示す通りである。どれも令和4年度になると一度下がっているが、これは児童の入れ替わり(卒業等)だけではなく、学年が上がると文章も複雑化した問題となり、より高度な読解力を必要とするためだと推測される。

表4 「情報を読み取る力」「情報を比較し読み取る力」に関わる問題の平均点推移

	令和3年度6月	令和3年度2月	令和4年度6月	令和4年度11月
「情報を読み取る力」	82.3点	87.2点	78.7点	87.5点
「情報を比較し読み取る力」	81.7点	84.6点	80.5点	86.2点
両方の平均	81.2点	84.0点	79.7点	86.5点

さらに詳しく見ていくと、「情報を読み取る力」に関する問題の方が、「情報を比較し読み取る力」に関わる問題よりも、年度内の伸び幅が大きい。単純な情報を読み取る「読解力」は指導の効果があつた考えられる。情報と情報を比較したり関連付けたりしながら、必要な情報を読み取る「読解力」は、思考を伴うため即時的な効果は表れにくいものと考えられる。

「読み取った情報を基に自分の考えを表現する力」に関わる問題では、言語能力の内の「創造的思考力」と「他者とのコミュニケーション」を見ることができる。この問題における令和3年度夏から令和4年度秋までの全学年(1年生を除く)平均点の推移は、表5に示す通りである。

表5 「読み取った情報を基に自分の考えを表現する力」に関わる問題の平均点推移

令和3年度6月	令和3年度2月	令和4年度6月	令和4年度11月
54.8点	59.3点	60.8点	64.7点

本来は前述の理由から一度下がってもおかしくないが、令和4年度をまたいで年々上がり続けている。「創造的思考の側面」及び「他者とのコミュニケーションの側面」におけるアカデミック・ライティング指導の効果であると伺える。本校国語部では、説明的文章を学ぶ際、筆者の説明の工夫を読み取り、自分の表現活動(話す・書く)に応用する授業づくりを行ってきた経緯がある。この2年間も、文章内容を理解するだけにとどまらず、国語科としての方略(説明の工夫)の習得・活用に焦点化した授業を行ってきた。これらの取組みも言語能力の育成に寄与していたと考えられる。